

「全国学力・学習状況調査」平均正答率東京都との差				「江戸川区学力調査」平均正答率全国との差							
学年		第3学年		学年		第1学年			第2学年		
年度	国語	数学	合計	年度	国語	数学	英語	国語	数学	英語	
令和12年度の目標				令和12年度の目標							
令和11年度の目標				令和11年度の目標							
令和10年度の目標				令和10年度の目標							
令和9年度の目標				令和9年度の目標							
令和8年度の目標	-5	-5	-10	令和8年度の目標	-5.0	-5.0	-8.0	-5.0	-5.0	0	
令和7年度の結果	-8	-15	-23	令和7年度の結果	-6.3	-7.9	-10.8	-9	-8.7	-2.8	
令和6年度の結果	-14	-8	-22	令和6年度の結果	-15.6	-13.1	-6.9	-7.1	-7.2	-8	
令和5年度の結果	-15	-10	-25	令和5年度の結果							

年度	令和7年度 成果と課題		令和8年度	
内容			目標	目標達成に向けた取組
学校全体	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Build up time(朝学習)を通して基礎問題演習を継続して実施することができた。 ・研究授業を実施し、授業を見合う機会を設けることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力調査において全ての学年、教科で区や全国の平均正答率に届いていない。 		<ul style="list-style-type: none"> ・全国、区の学力調査において、上記の目標数値を達成する。 ・教員同士の授業参観や校内研修を行い、教員の授業力を向上させる。 ・家庭と連携し、基礎学力の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Build up timeで全国学力・学習状況調査の基礎問題演習を行う。 ・研究授業や校内研修を行い、教員による授業改善を行う。 ・学校行事や授業において、他者から認められる教育活動を充実させる。 ・自己の成長を客観的に捉えられるようキャリアパスポートの記入や各教科での振り返り活動を充実させる。 ・学校公開や保護者会の機会に、家庭学習について情報共有を行う。
第1学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よむYOMUワークシートを用いた学習や家庭学習の指導を継続して実施した。 ・区学力調査の上昇率が江戸川区内で上位だった。 ・区学力調査において、国語は目標値より5.3高い。英語は、目標との差は-0.3と達成に近づいた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・江戸川区学力調査において、平均正答率が全国と比べてすべての教科で下回っている。 ・国語では、全ての観点・領域の正答率が区の平均を下回っている。特に「思考・判断・表現」「記述式」「書くこと」「読むこと」に課題がある。 ・数学では、全ての観点・領域の正答率が区の平均を下回っている。特に「知識・技能」「短答式」「数と式」に課題がある。 ・英語では、全ての観点・領域の正答率が区の平均を下回っている。特に、「思考・判断・表現」「記述式」「書くこと」に課題がある。 		<ul style="list-style-type: none"> ・よむYOMUワークシートを用いた学習や家庭学習の指導を継続して実施する。 ・国語では「思考・判断・表現」「書くこと」「読むこと」の領域の区平均正答率との差を減少させる。 ・数学では、「知識・技能」「数と式」領域の区平均正答率との差を減少させる。 ・英語では、4技能全てにおいての基礎となる語彙力を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語の授業の中で意識的に「考える」時間を設ける。また、課題に対して、じっくりと自分の意見を文章にまとめること、「読むこと」の学力を高めるためによむYOMUワークシートの活用、漢字の書き取りテストを多く実施する。 ・数学では、補習やデジタル教材を活用し、特にD層には既習範囲まで遡った指導を行う。また、「数と式」の反復を日常化する。 ・語彙力を身につけるために、単語・熟語テストを定期的に行うとともに、単語テストに向けて、生徒の学習意欲を高められるような言葉掛けや関わりをする。
第2学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小テストの成績優秀者を掲示することで、生徒の学習意欲を向上させることができた。 ・区学力調査において、英語は目標値より0.3高い。国語は-0.8と目標達成に近づいた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・江戸川区学力調査において、平均正答率が全国と比べてすべての教科で下回っている。 ・国語では、全ての観点・領域において区の平均を下回る結果となった。特に「思考・判断・表現」「記述式」「話すこと・聞くこと」の観点・領域に課題がみられた。 ・数学では、全ての観点・領域の正答率が区の平均を下回っている。特に「知識・技能」「短答式」「関数」に課題がある。 ・英語では、全ての観点・領域に関する達成率が区の値よりも低い。特に、「知識・技能」「短答式」「書くこと」が課題である。 		<ul style="list-style-type: none"> ・小テストの成績優秀者を掲示することで、生徒の学習意欲を向上させる。 ・国語では、「思考・判断・表現」「言葉・情報・言語文化」の領域の正答率を向上させる。 ・数学では、「知識・技能」の定着、「関数」 ・場面に合った英語表現の方法や語彙力の定着、文法的に正確な表記の仕方を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語では、授業内において思考する力をつけるために課題に向き合う時間をしっかりとる。 ・古典や文法の学習を通して「言葉」に対する関心を高める。 ・毎時間、漢字の書き取りテストを実施し、授業及び家庭学習においても学習を積み重ねることによって力をつけ、全般的な基礎力を向上させる。 ・英語では、定期的な単語・熟語テストの実施と既習の表現や学習している表現を有効に活用させるために、場面を設定して書き表す機会を増やし、応用が求められる表現の基礎として定着させる。
第3学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早帰りの日や週末に課題を出し、基礎学力の定着を図ることができた。 ・学習計画表を活用し、計画的に学習が進められるように工夫できた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査において、主体的な学習の調整や自己有用感に関してポイントが低い。 ・全国学力・学習状況調査において、平均正答率が東京都と比べてすべての教科で下回っている。 ・数学では、都平均を15.0ポイント下回っている。D層は41.0%と全国の約2倍に迫り、基礎学力の定着に課題がある。特に「数と式」や素数、一次関数の理解不足が顕著であり、論理的思考力と表現力や挑戦しようとする力を身に付けさせる必要がある。 ・国語では、平均正答率は49%と全国を大きく下回り、D層が37.2%に達している。特に、「知識・技能」が37.2%と極めて低く、「思考・判断・表現」に影響している。語彙等の基礎不足が、記述力(22.1%)の弱さや思考の言語化を阻害していることが課題である。 		<ul style="list-style-type: none"> ・自己有用感を高めさせる。 ・主体的に学ぶ姿勢を身に付けさせる。 ・国語では、都平均を下回る「思考・判断・表現」領域を向上させる。 ・数学では、課題である「思考・判断・表現」領域の育成を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・細やかな目標を設定し、達成を積み重ねさせることで自己有用感を高める。 ・国語では「考えたくなる課題」の設定により生徒の関心を高める主体的・対話的学びを推進する。特に記述指導では、根拠を明確化する演習を重ね、論理的表現力を徹底して養う。知識・技能の定着については、低正答率の漢字や語彙に対し、反復学習と小テストを徹底し、読解・記述の実践で使えるレベルへ引き上げる。 ・数学では、生徒が自ら考え、表現する場面を重視した授業を現在より多く取り入れる。基礎的な理解に課題を抱える生徒に対しては、個々のつまずきに寄り添った細かな支援を徹底する。授業内で小さな成功体験を積み重ねることで数学への苦手意識を和らげ、自己有用感をはぐくみながら、一人ひとりの可能性を粘り強く伸ばしていく。